

株式会社田村ビルズグループ

所在地 山口市黒川400-1 (山口本社)

連絡先 TEL 083-902-0950
FAX 083-902-0951

代表 田村 伊幸



今月号では、老舗ベンチャー企業、株式会社田村ビルズグループの5代目社長である田村伊幸氏と、LFB TOWER責任者の大草快貴氏にお話を伺いました。

沿革

- 明治12年 創業
- 昭和47年 田村建材(株)を設立
- 平成21年 田村伊幸氏が5代目社長に就任
- 令和4年 (株)たむらホールディングスから(株)田村ビルズグループに社名変更
- 令和6年 山口市中心商店街にLFB TOWERオープン



創業145年、時代の流れに合わせた変化と挑戦

田村ビルズグループは、明治12年に旧大津郡三隅町(現・長門市)で創業した食料品店「田村屋」から始まり、昨年で創業145周年を迎えました。食料品の製造販売から、生活必需品の販売、金物屋、建材販売・足場工事業と、時代のニーズに合わせて事業転換を図ってきました。

長門や萩で事業を展開していたのですが、人口減少などの問題がある中で、さらなる成長を求めて山口市にも拠点を設け、周辺事業へと拡大していき、現在は建築・不動産事業と、環境リサイクル事業がグループ全体の二本柱となっています。



LFB 新築住宅の外観



明治時代に生活必需品を販売していた「田村商店」

「ALL LIVING 暮らしのすべて」を全事業の共通コンセプトとして、私たちの事業で暮らしを豊かにすることを目指しています。その中で、LFB (LIFE FAN BOX=生活を楽しむ人のための家) という自社ブランドを展開しており、LFB 新築住宅やLFB APARTMENT、LFB 賃貸などのサービスを提供しています。不動産の売買や建物の設計、足場工事、建築、産業廃棄物の処理など、グループ内で一気通貫して事業を進められるのは強みのひとつです。

自社流にアップデートした経営哲学で、共通の価値観を持つ

田村ビルズグループには、京セラ(株)や第二電電(株)(現・KDDI(株)) 創業者の稲盛和夫氏が唱えられていた経営哲学であるフィロソフィを自社流に変えた「TAMURA フィロソフィ」があります。

TAMURA フィロソフィは、私たちが働く上でとても大切にしている価値観・考え方で、働く理由や会社の存在意義を考えるための軸になるものです。全78項目が1冊の手帳にまとめられており、全社員が携帯しています。書いてあるのは「まず思う、強く思う、ずっと思う」「常に謙虚であらねばならない」「真の勇気をもつ」など一見抽象的なことですが、「勇気がないばかりに発言しなかった、見て見ぬふりをしてしまった」という経験は誰しもあるのではないかと思います。

そういった理想の考え方を明文化して、大切だと思ふ価値観を共有しておくことで、日々の行いを反省し、時には勇気をもらうなど、仕事に留まらず人生をより良きものにしていけると考えています。



「TAMURA フィロソフィ」の手帳

働く人で魅了する、独自の採用ポリシー

「『どこで』ではなく『誰と』働くか」。この採用スローガンを掲げてから、現在の正社員数は250人を超え、新卒社員は8割以上が生まれも育ちも出身大学も、山口県にゆかりがない状態で入社しています。

「どこで」というのは所在地だけではなく、企業の規模や業界、職種、条件などを含んでいて、「誰と」というのは「どんな考え方の人たちと働きたいですか?」という問いかけです。人は、周囲の人から多くの影響を受けます。特に新社会人に関しては、真っ白な状態で入社してくるので、周囲の人の考え方、仕事観、人生観に色濃く影響を受けることとなります。そうであるからには、どんな人と働くかは重要なことです。

かつて採用活動をして、見向きもされない頃がありました。働くなら都市部で、と考える方が多かったようです。そこで、「働きたいと思った会社が山口県にあった」となるよう「僕たちと働きませんか?」と打ち出していきました。

オウンドメディア「TAMURA MEDIA」では各社員への個別インタビューなどを掲載し、採用サイトでもどんな人と一緒に働くようになるかが想像しやすい工夫をしています。なにより、TAMURA フィロソフィが、「一緒に働きたい」と思われる人間たらしめるものになっていると言えます。2025年4月1日には13名の新卒社員が入社しました。

●先に進む不動産事業、新たな領域でチャレンジ

社内では「全員参加型の経営」を掲げています。経営層との情報格差を可能な限りなくそうと、毎週更新される経営指標は全社員が確認できるようにしています。全員が経営者視点での思考や発想ができるようにする狙いです。

そんな中で、社員の発案から始動した新規事業が不動産情報マップシステム「スモ〜ラ」です。従来のリアルな土地・建物の売買とは異なる不動産テック事業という新しい事業領域なのですが、好調に動き出しています。

主に不動産会社と住宅会社向けのシステムで、物件の売り出し情報や建物の間口・奥行、ハザードマップの情報など、従来バラバラにあって、ひとつずつ確認する必要があった不動産のあらゆる情報を地図上で可視化するサービスです。

元々は世の中になかった自分たちが欲しかったシステムを考えたところから始まったのですが、非常に良いものに仕上がったので外に売り出していくこととなり、今では山口版のID発行数は1年半で130件以上となりました。サブスクリプション型なのですが、一度ご契約いただくとほぼ離脱がなく、ご好評をいただいています。

北九州版、熊本版もリリースしており、5月末までには福岡版、佐賀版、大分版もリリース予定です。さらに、長崎版、宮崎版、鹿児島版も2026年中のリリースを目指しています。



企画展を開催していた際の LFB HUB

また、不動産ファンド事業「田村ビルズクラウドファンディング」も新たに立ち上げました。当社が所有して賃貸運営をしている市内各地の物件などを小口化し、少額から投資できるようにした商品を数本リリースしてきましたが、全て募集金額を上回る応募がありました。投資家の方には賃料収入と売却益を配当原資として分配されるようになっています。

そのうちの1本が昨年10月に山口市中心商店街にオープンした「LFB TOWER」です。投資で資産を増やすだけでなく、地域を「応援する」という側面に焦点を当て、「やまぐち応援ファンド」として売り出しました。地域活性化に資するリーススペースにしたいと考えている地下1階フロア「LFB HUB」は、不動産クラウドファンディングで調達した資金で音響設備や内装を整えました。ぜひ、地域の多くの方に楽しんでもらいたいと思っています。



スモ〜ラのデモ画面。マップ上で学校区や災害ハザードエリア、物件の相場などを確認できる

●田村ビルズグループとの接点をつくり出す LFB TOWER、地域貢献も積極的に

LFB TOWERは、旧タマヤビルをリノベーションし、以前から米屋町商店街にあったLFB CAFEを同ビル内に移転させて、食・住という観点から「暮らしを豊かにする場所」としてオープンしました。当社のことを知ってもらい、気に入ってもらえるようにするためのタッチポイントにしたいと考えています。

中心商店街の米屋町交差点で、十字路の角という目立ちやすい好立地にあることを生かして、2月末には大型透過LEDビジョンを設置しました。曲面で、縦4m、横3mという大きさは国内でも珍しいものです。このビジョンを通して地元企業や地域の情報発信を応援したいと考えています。地下のLFB HUBも地域や学校で活用してもらえる場所にしたいです。

また、環境リサイクル事業も展開しているので、サステナビリティ(持続可能性)について考えるきっかけになればと、店内の小物や壁紙にバナナの茎の繊維を使ったバナナペーパーを活用したり、トライタンという素材でできた割れにくい食器で提供したりしています。

今後はLFB TOWERを拠点に人や情報が集まり、地域内を人が回遊するようになる場にしたいと考えています。



大型透過LEDビジョンが設置されたLFB TOWER



バナナペーパーを使った店内の小物

●すべてのステークホルダーと共に、GREAT COMPANYを目指して

「すべてのステークホルダーに『よかれかし』」という当社の目指すべき姿があります。社員には「この会社に入ってよかった」、お客様には「この会社に頼んでよかった」、取引先の方には「この会社と取引してよかった」、地域の方には「この会社があってよかった」と思ってもらえるような会社になりたい、ということです。

併せて、持続的な成長を可能とする高い「収益性」、人としての成長を促す「教育性」も兼ね備えた「GREAT COMPANY」を目指して、これからも邁進していきたいと考えています。